

審査講評

1. 総評

審査は一次、二次の2段階の手順で行なわれた。

[一次審査] 提出された10者の技術提案書の内容を以下の4項目の着目点(テーマ)に関する的確性、独創性、実現性により評価した。

- [1] 人にやさしく 環境にやさしい 快適な学校づくりと エコ改修からはじまる 人づくり まちづくり[業務への取組体制、設計チームの特性、特に重視する設計上の配慮事項、実施手順等]
- [2] 健康で快適な教育環境づくりと環境にやさしい学校づくり [提案の全体像]
- [3] 地域の特色を活かすとともに、地域と連携した学校づくり [設計等の進め方]
- [4] エコ改修を将来的に活かすための工夫 [成果の継承]

的確性、独創性、実現性に関する具体的な内容(キーワード)は下表の通り。

的確性	与条件との整合
	エコ改修事業の理解
実現性	説得力
	提案内容の裏付け
	提案内容の適切性
独創性	事業費に対する提案内容の妥当性
	提案の独自性
	新(工)法採用の提案
	高度の検討・解析手法
	創意工夫のある提案

なお、本改修において主要な要素である環境負荷の軽減、環境教育等に関する評価は、項目[2]で評価される。

応募各案は、本改修事業の中で行なわれた勉強会で得た知識、並びに各提案機関の特性を十分に発揮した力作であり、市、審査委員会として敬意と謝意を表したい。

[二次審査] 一次審査の結果選出された6案の提案者々々に対して行なわれたヒアリング(プレゼンテーション、質疑応答)の内容、並びに技術提案書の内容に基づき審査された。この審査では主として以下の4つの着目点に基づき、提案者の能力・特性、並びに技術提案書の内容を評価した。

気力(本改修に対するモチベーション、積極性、取組意欲)

対応力(提案変更等の要望への柔軟な対応性、理解力)

実現力(業務遂行能力、事業費に対する妥当性)

創造力(独自性、創意工夫の可能性)

ヒアリングに残った6案については学校、環境、地域性、構造、地球環境、設計・計画プロセス等について十分考えられていることが直接のやりとりを通して確認できた。また、基本計画の理解、大切にすべきものについての設計者個々の明確な提言を通して、社会変革における建築家に期待される部分を関係者が改めて感じる機会ともなった。

2. 各案評（二次審査対象者。以下の番号は、技術提案書受付番号）

1 番

設計・計画面では、各フロア中央に「なるかエコワークステーション(1F)」、「創造活動スペース(ラボ)(2F)」、「創造活動スペース(ホール)(3F)」の多目的利用を想定したオープンな空間、階段踊り場を活用したワークスペース空間を有している。環境負荷軽減策の点では、伏流水を活用した冷暖房システム、移動式「エコスクリーン家具(壁面緑化)」の提案、環境教育面では、「エコごころ」を学ぶと題したメンテナンスへの児童・教員の直接的な関わりを通じた環境教育の工夫が盛り込まれた案であった。平面計画的に無理が無く、高い柔軟性、運用面の工夫の点で高い評価を得た。しかし、盛り込まれた環境負荷軽減技術のコスト面での実現可能性、耐震改修案の妥当性等に疑問が残った。

2 番

計画的には、児童のクラスルーム(CR)を2学年毎に各階に配置し、各階CRの中間または近傍に教師コーナー(クラス担任の授業合間の作業・面談スペース)が配置されており、児童との距離感を狭めた対話しやすい環境に配慮されている。環境負荷軽減面では、吹き抜けを活用した自然換気システム、蓄熱式床暖房が採用されている。改修前のプランに比較的近く、コストを抑えた内容であり、実現可能性が高く評価された。また、現児童クラブの屋上に設けられた「思い出のデッキ」は空間的にも面白く高い評価が得られた。

しかし、空間利用に関する独創性の面での工夫の余地が比較的大きかった点が採用案とならない要因となった。加えて、職員室、図書室、児童クラブが狭い点、教師コーナーの必要性・大きさに関する疑問が残った。

3 番

計画的には2番同様、CRを2学年毎に各階に配置されており、特別室の配置も改修前と概ね変更の無い実現性の高いプランとなっている。1F中央には多目的利用を意図した「みんなのラウンジ」が配置され、環境学習、ランチ、児童クラブ等の利用を予定している。環境負荷軽減の工夫としては、建材一体型太陽光発電パネル(BPIV)の活用、屋上緑化、井戸水を利用した輻射冷暖房、タスク・アンビエント空調が特徴である。前述の高い実現可能性、実行力の高い取組体制が高く評価された。その反面、「みんなのラウンジ」の児童クラブとの併用は小学校の運営体制の実状と大きく異なり変更の必要がある点、BPIVの設置位置に関する検討の必要性が指摘された。これらの問題は、本案を採用される場合、修正が必要と考えられるが、ヒアリング時の質疑応答の際に感じた対応力(柔軟性)の弱さが、組織としての柔軟性に疑問が残った。

7 番

平面計画では、1,2年生 CR を 1F に、3~6年生 CR を 2F に配置し、3F に多くの特別室を配置した計画となっている。環境負荷軽減の方法として南側外壁にダブルスキンを採用した高断熱化、自然風力換気窓による自然換気の促進、OMソーラーを活用した床暖房等が導入されている。平面計画的に改修前との差異が少なく実現可能性は高く評価された反面、空間の面白さという点での創造力に対して低く評価される結果となった。加えて、本案の環境負荷軽減策の主要な機能として設けられたダブルスキンについては、メンテナンス費用・労力面、並びに安全面（南側は校庭に面しているため、ガラスの破損による落下の危険性がある）で疑問が残った。

8 番

平面計画においては、1F にメディアセンター、校内活動の情報発信スペースとしての「まほろばギャラリー」、理科・家庭科（調理）教育を主とした「大地の家」、2F に総合学習スペース（図工等）の機能を持たせた「太陽の広場」、3F に裁縫教育を主とした総合学習スペース「恵みの舞台」を配置している。環境負荷軽減方策としては、東西、南北、両軸に対する風の道、建物の半地中化（大地の家）、蓄熱体（遊戯機能を有するトロンブウォール等）を活用したパッシブな負荷軽減技術をはじめ非常に多くの機能が盛り込まれている。加えて、今後実施される WS の内容（実施項目）等も非常に多岐にわたる。空間計画的に非常に高い魅力を有すると同時に耐震改修に対しても十分考えられた案であり、高い評価が得られた。その反面、非常に多くの機能・取組みが盛り込まれている点についての実現可能性、ヒアリング時の質疑応答において感じた対応力（柔軟性）の面での不安が指摘された。しかし、今後の本格的な設計計画の際に各機能の効果を評価する過程で取捨選択（淘汰）が行なわれ、最終的に盛り込まれる機能が決定されると判断された点（その過程で得られた知見は、今後坂井市が進める学校改修で盛り込むべき要素を考える上で参考となること等）、提案者の年齢構成も比較的若く今後の対応改善が期待される点、耐震計画をはじめ個々の要素に対する十分な検討の跡が見られる点、空間的に非常に面白い夢のある計画である点、が評価された。

9 番

平面計画においては、2F での CR の集中配置による複数学年の結びつき強化に配慮されたプランとなっている。3F に家庭科室、理科室、図書・コンピュータ室、1F に「えんがわサロン（教員・児童・地域住民の交流機能を含む多目的スペース）」が配置されている。環境負荷軽減については、「エコ・セイル」という帆船の帆の様な形状の屋根を設けることにより、夏期の気流の中庭への誘引、冬期の季節風・積雪の流入防止を想定している。空間計画、設計（WS）の進め方、ヒアリング時の質疑応答で感じた提案者の対応力には、ヒアリング対象中で最も高い評価が得られた。一方、「エコ・セイル」については、風の非常に強い鳴鹿小学校

の特性を捉えた機能として非常に面白い反面、その有効性(実際の効果)について十分検討する必要がある点が指摘された。「エコ・セイル」は提案者の思い入れも強く、非常に多くのコストを必要とする本案の「顔」であるため、今後の検討でこの機能が否定された場合、これを除くという案を見出すことが非常に困難であること、「エコ・セイル」以外の他の機能のインパクトが残念ながら弱くエコスクールに求められる「売り」となる環境負荷軽減技術が低くなる、という点が最終的に大きな疑問(不安)となった。

鳴鹿小学校校舎エコ改修工事設計者選定プロポーザル審査委員会